

第 9 章

アフリカ諸国の貿易構造の基礎的解析

- SADC3 カ国の商品別貿易の分析を中心に -

須藤 裕之

はじめに

本稿の目的は、南アフリカ¹、モーリシャス、タンザニアを取り上げ、1990年代後半におけるこれら 3 カ国の貿易構造を国連貿易統計に拠りながら、検討していくことにある。こうした作業をする上での基本的な問題意識は、途上国における経済開発手段としての貿易政策を検討するための基本的な理解と基礎資料の作成を行うことにある。

貿易を原動力として 1980 年代後半以来、飛躍的な経済発展を遂げた東アジア地域経済の経験は言うまでもなく、貿易政策はこれまで経済開発上の重要なテーマの一つであったといえる。しかしながら、アフリカ地域経済についていえば、こうした貿易政策を検討する際に必要な貿易の実態やその構造に関する分析および基礎資料の提供が、他の開発途上地域と比べ必ずしも十分とはいえない。

そこで本稿では、アフリカ諸国の貿易構造に関する基礎的な理解を得るために、国連貿易統計を使って、やや詳細に、上述した「南部アフリカ共同体」

¹ 本稿で利用した UNSD（国連統計局）統計資料において「南アフリカ共和国」単独でのデータは存在せず、同国にボツワナ、レソト、ナミビア、スワジランドを加えた「南部アフリカ関税同盟」（SACU）が貿易主体としては最小単位となっている。したがって、厳密には、本稿の分析は、2 カ国 1 地域の分析であることを予め断っておく必要がある。

(SADC) 3カ国の商品別貿易構造に関するデータを提示する。

第1節 分析対象とツール

1. データに関して

各国の貿易に関する分析に入る前に、本稿で用いるデータと分析ツールに関して簡単に説明しておく。本稿で用いる貿易データはすべて国連統計局（UNSD）が作成したデータベース²に基づいている。したがって、後に述べる「標準国際貿易商品分類」（SITC）1桁をめぐる各国の輸出入「偏倚度」や貿易構造に関する数値は、一貫して国連統計によるもので、他資料からの補足修正等をまったく行っていない。この結果、本稿における3カ国の商品別貿易額のデータ期間は、モーリシャスが1994年から99年、SACUについては94年から98年、タンザニアについては97年のみの値である。また本稿で用いた世界貿易の数値は、全世界各国の全輸出（輸入）額の合計ではなくて、当該期間において商品別貿易額が統計上は明確な計90カ国（SACUを1カ国として計算して）の貿易額を積み上げた世界貿易額である³点を予め断っておく。

こうした留保事由はあるが、商品別貿易構造や「偏倚度」の検証が本稿の目的であり、また、後に述べるように、各国の商品別貿易構造や「偏倚度」の実際の算定過程において、世界貿易総額は余り大きな意味をもっておらず、世界貿易の商品別構成シェアの方が決定な意味を持っている。したがって、上述した点を考慮しても、本稿で得られた結論の妥当性は大きくは損なわれ

² 一般には COMTRADE として知られているが、本稿で用いたデータは SITC 分類法第3版である（ITC/UNSD [1999] [2000]）。また SITC 分類各版との各商品の対応については、野田編[2001]を参照。

³ Commodity Trade Statistics をはじめ 国連貿易統計は、原則として一部先進諸国を除き、基本的には2年に一度の頻度で更新されている。つまり、一年毎には各国とも最新の貿易データは取れない。本稿が寄ったのは1999年のデータである。ただしこれら90カ国の貿易シェアは、全体の90%を超える。

ないと考えられる。

2. 分析概念について

本稿では、対象国の貿易構造を以下のような分析概念で持って把握していく。第一は SITC1 桁（大分類）による「商品別輸出偏倚度」(degree of export deviation by commodity: EDC)と「商品別輸入偏倚度」(degree of import deviation by commodity: IDC)である。「商品別輸出偏倚度」(EDC)の算出式は以下の通りである。

$$EDC = \frac{AX_i / \sum AX_i}{WX_i / \sum WX_i} \quad (1)$$

ここで AX_i は A 国 i 番目(本稿では SITC1 桁番号)の商品の輸出額であり、 $\sum AX_i$ は A 国の全商品輸出額（総輸出額）である。したがって、 $AX_i / \sum AX_i$ は A 国における i 番目の商品の輸出シェアということになる。 WX_i は世界（90 カ国）における i 番目の商品の輸出額であり、 $\sum WX_i$ は世界の全商品輸出額（総輸出額）であるので、 $WX_i / \sum WX_i$ は世界輸出に占める i 番目の商品の輸出シェアということになる。この値が 1 より大きければ大きいほど A 国はその商品の輸出に特化していることになる。全ての輸出財に関するこの指数から構成される輸出構造は、世界の輸出構造からの当該国の偏りを示しているといえる。

「商品別輸入偏倚度」(IDC)についても同様に以下のような算定式を用いた。

$$IDC = \frac{AM_i / \sum AM_i}{WM_i / \sum WM_i} \quad (2)$$

AM_i は A 国 i 番目の商品の輸入額、 $\sum AM_i$ は A 国の輸入総額である。したがって、 $AM_i / \sum AM_i$ は A 国 i 番目商品の輸入シェアであり、 $WM_i / \sum WM_i$

は世界の i 番目商品の輸入シェアというになる。「商品別輸出偏倚度」同様、当該国の輸入構造の偏りがこの式から算定される。概念上、世界総輸出額 ($\sum WX_i$) は世界総輸入額 ($\sum WM_i$) に等しくなるはずなので、(2)式における $\sum WM_i$ の代わりに(1)式における $\sum WX_i$ を使っても本来は問題ないが、上述したように本稿で用いている世界貿易額はあくまで 90 カ国の積み上げであるので、必ずしも世界の全商品輸出額と輸入額は等しくならない ($\sum WX_i \neq \sum WM_i$)⁴。したがって、本稿では、輸出入別々に指数を計算している。

また本稿では、上述の輸出入「偏倚度」を単年度ではなく、SACU 及びモーリシャスについては 1994 年～98 年の 5 年間の累計でもって計算している。ただ、タンザニアについては、データ上の制約から、「商品別輸出偏倚度」については 1997 年の単年度から計算し、「商品別輸入偏倚度」については 1995 年から 97 年の 3 年間の累計でもって計算を行っている。

3. 商品別輸出超過度

前項における輸出入「偏倚度」は、当該国の貿易構造の特徴や特化状況を把握するうえで有効な概念である。しかしながら、輸出入構造と特化状況を詳しく把握するためには、SITC1 桁（大分類）水準では当然大きすぎる。

こうした問題をクリアするためには、前述の輸出入「偏倚度」を前提として、もう少し簡便で補完的な指標が必要である。本稿では、対象とする SADC 3 か国の商品別貿易構造をさらに細かく見るために、以下のような商品別の輸出・輸入差額にもとづく「商品別輸出超過度」(degree of excess export by commodity: EEC)を用いている。

⁴ 積み上げの結果として、1994 - 98 年の 90 カ国累計総輸出額 22 兆 6326 億 6068 万ドルに対して累計総輸入額は 23 兆 9107 億 8932 万ドルとおよそ 1 兆 3000 億ドル程度の差がある。

$$EEC = \frac{AX_i - AM_i}{AX_i + AM_i} \quad (3)$$

文字記号の意味は、前項の輸出入「偏倚度」と同じである。式から理解できるように、これは A 国におけるある商品の輸出入収支の大きさを指標化したものといえることができる。

前項の輸出入「偏倚度」が常に正の値（ $0 < EDC, IDC$ ）をとるのに対し、この「商品別輸出超過度（ EEC ）の値は-1 から 1 の範囲（ $-1 \leq EEC \leq 1$ ）をとる。すなわち、値が 1 に近づけば近づくほど「商品別輸出超過度」が強く、-1 に近づけば近づくほど弱いといえる。理論的には、 EEC が 1 のときその商品の輸出は当該国において完全特化ということになり、その業種について水平分業が達成されていれば、 EEC は 0 になるであろう。

ただ貿易額はかなり変動するものなので、単年度ごとの数値には大きな差が出る。この点を考慮して本稿では、前項の輸出入「偏倚度」同様、モーリシャス、SACU については 5 年間の累計でもって指数を計算している。タンザニアに関しては、唯一データが利用可能な 1997 年のみの算定となった。

また経済開放度の高まりは、貿易財の範囲を拡大し、特定財への依存度を低くする。結果、「商品別輸出超過度」の絶対値を小さくするので、超過度の大小を国際間で比較する際には、その点を十分考慮する必要がある。

第 2 節 SADC3 カ国の貿易構造

前節で述べた分析概念を使って、以下では SADC 3 カ国⁵の貿易構造、特化構造について検討していく。

⁵ 南アフリカがアフリカ地域における圧倒的経済大国であること、モーリシャスは輸出指向型発展によって完全雇用を達成したアフリカ唯一の国であること、一方タンザニアは低所得でかつ重債務を抱える典型的なアフリカの国であること、以上の理由からこの 3 カ国を分析の対象に選んだ。

1. SACU (南部アフリカ関税同盟)

表1は、前節で述べたその「商品別輸出偏倚度(EDC)」及び「商品別輸入偏倚度(IDC)」を SITC 1 桁レベルで SACU についてまとめたものである。様々なデータ上の制約から、現時点でこれら両指数について把握できるのはこの水準に限界である。この表のデータをグラフにまとめたものが図1である。ここでは、横軸に「商品別輸出偏倚度」、縦軸に「商品別輸入偏倚度」をとり、両軸ともに対数表示にしてある。

指数の説明のところでも述べたように、この偏倚度は SACU の輸出入構造と世界貿易構造との偏差を表しているので、この指数が1を超えるか否かが一つの大きな意味を持っている。すなわち、商品別輸出偏倚度軸の1より右側の部分に属する産業は、世界からみて相対的に SACU が輸出に特化していると思われる産業であり、図では「食料に適しない原材料」、「飲料・タバコ」、「食料品・生きた動物」、そして「原料別製品」がこれにあたる。これとは対照的に商品別輸入偏倚度軸の1より上の部分は輸入に特化していると思われる産業である。SACU の場合、「動植物性油脂」、「化学工業生産品」、「機械類・輸送機械」がこれにあたる。ここで考慮しなければならないのは、「商品別輸出偏倚度」、「商品別輸入偏倚度」とともに1を超える「特殊取扱品」(特定の産業ではない)と「鉱物性燃料・潤滑油」の解釈の仕方である。

この点を補足するために「商品別輸出超過度」を使って、SITC 3 桁分類の水準での SACU の貿易主要 10 品目の特化度を表2で見よう⁶。主要 10 品目とは 1995 年から 98 年までの累計貿易額(輸出入の合計)の大きい上位 10 品目である。当該期間中最も輸出入の大きかった品目は「特殊取扱品」である。SACU における「特殊取扱品」の輸出入「偏倚度」の大きさは、この「特殊取扱品」ゆえである。

⁶ この「商品別輸出超過度」を使った対象 3 カ国の SITC 3 桁レベル全体の超過度を付表 1 から付表 3 にあげた。

以下「真珠・貴石・半貴石」、「原油・粗油」、「石炭」と貿易シェアの大きな品目が続くが、特に「原油・粗油」と「石炭」は表1において輸出入「偏倚度」とも1を超えていた「鉱物性燃料・潤滑油」に属する品目である。その「商品別輸出超過度」は「原油・粗油」が-0.96であり、「石炭」が0.91と超過度の強弱は対照的である。

表2における「商品別輸出超過度」が強い品目に着目してさらに商品分類水準を上げ、その実際の輸出額の推移についてみてみよう。より具体的には、「真珠・貴石・半貴石」(商品別輸出超過度 0.78)「石炭」(同 0.91)そして「銑鉄・フェロアロイ」(同 0.89)である。結果を表3にまとめた。検討は行わないが、「特殊取扱品」(SITC9)の輸出額についても同表に示した。この結果、SACUは「ダイヤモンド(工業用のものを除く)」、「その他の石炭」そして「その他のフェロアロイ」の輸出が中心的存在となっていることがわかる。

2. モーリシャス

SACUとまったく同様の方法で、モーリシャスの貿易構造についてみてみよう。表4は、モーリシャスの輸出入「偏倚度」であり、この結果をまとめたものが図2である。これの図表から理解できることは、モーリシャスが貿易構造上、輸出に関しては「その他の種々の製品」に、輸入に関しては「動植物性油脂」と「原料別製品」にそれぞれ相対的に特化しているといえることである。以上のことを確かめるために、表5でモーリシャス主要10品目の「商品別輸出超過度」をSITC3桁レベルで把握してみよう。一見して最上位の「その他の衣類」(商品別輸出超過度 0.95)をはじめ「男子用織物上衣」(同 0.99)「女子用織物上衣」(同 0.96)という、表4や図2において「その他の種々の製品」に属する品目の「商品別輸出超過度」が極めて強いことがわかる。またこれらアパレル産業の原材料としての「紡織用繊維の糸」(同-0.85)「綿織物」(同-0.49)「メリヤス・クロセ編みもの」(同-0.50)の「商品別輸

出超過度」が弱く（つまり輸入されており）、逆に SITC1 桁の「食料品・生きた動物」に属する「砂糖・はちみつ」（同 0.93）が「商品別輸出超過度」の強い品目として示されている。SACU 同様、この「商品別輸出超過度」の強い品目に関して分類水準を 4 桁まで上げてみよう。結果を表 6 に示した。

モーリシャスは輸出加工区にアパレル産業の外資を受け入れ、一時は完全雇用状態にあった国として知られている。その実際の中身が表 6 に示されており、男子用、女子用を含め衣類は「ズボン・半ズボン」、「シャツ」などの比較的加工度の低いものがその中心を占めている。また表 5 で「商品別輸出超過度」の弱かった「メリヤス・クロセ編物」が加工され、「ジャージ」や「T シャツ」として「その他の衣類」における主要な輸出商品となっている点も把握できる。

3. タンザニア

続いて、タンザニアについて見ていこう。前節で述べたように、資料の制約からタンザニアに関しては 1997 年の数値しか利用できなかった。この点を念頭に入れながら、前 2 カ国と同様な方法で貿易構造を把握してみよう。

表 7 は、SITC1 桁レベルでのタンザニア各産業の輸出入「偏倚度」について調べたものである。図 3 はその結果に基づくもので、これを見るとタンザニアの貿易構造が「食料に適しない原材料」、「飲料・タバコ」そして「食料品・生きた動物」などの一次産品輸出に特化し、「動植物性油脂」、「化学工業生産品」、「原料別製品」などを輸入しているということがわかる。

SITC3 桁レベルまで分類水準を引き上げ、「商品別輸出超過度」についてみると、貿易シェア上位 10 品目のうちほぼすべての品目の「商品別輸出超過度」が絶対値で大きな値をとっていることがわかる（表 8）。これは、モーリシャスのように原材料を輸入し、加工して輸出するというタイプの貿易構造ではなくて、原材料を輸出して完成品として「製品」を輸入している一次産品国に特徴的に見られる貿易パターンである。確かにタンザニアのデータは単年

度なので、前2ヶ国の「商品別輸出超過度」とはそのまま比較することはできない。

表8におけるタンザニアの輸出品目である「綿」(商品別輸出超過度 1.00)、「コーヒー・同代用品」(同 0.99)、「葉たばこ」(同 0.97)、「果物・ナット(生鮮・乾燥)」(同 0.99)、そして「魚(生鮮・冷蔵・冷凍)」(同 1.00)について SITC4 桁レベルまで分類水準を上げて、実際の輸出額について見たものが表9である。これをみて理解できることは、これら輸出品目全体の加工度が、概して低いことである。唯一輸出額が多い加工品目として「魚の切り身(冷凍)」、「魚の切り身(生鮮又は冷蔵)」があるのみである。タンザニアが輸出を通じた経済開発を考えるためには、こうした輸出品目の加工度を何らかの形で高めていく必要があるといえる。

今後の課題

以上、きわめて簡単ではあるが、SADC 3カ国に関するその貿易構造についてみてきた。そこでは、「商品別輸出偏倚度」、「商品別輸入偏倚度」として把握される一国の貿易構造を「商品別輸出超過度」を使って、SITC3 桁レベルまで引き上げて見てきたわけだが、結論としては、この方法によってかなり整合的に一国の貿易構造なり、輸出・輸入特化状況が把握できるのではないかということである。そこで今後の本研究の方向としては、本稿で試みた分析手法を、SADC 加盟国全体についてまで広めると同時に、今回の分析対象国も含め、輸出入「偏倚度」を SITC2 桁レベルまで、「商品別輸出超過度」SITC4 桁レベルまでその分類水準を高めることでの精緻化を図っていこうと思う。

[参考文献]

< 日本語文献 >

野田容助編[2001]『商品分類の改訂に伴う貿易統計の変換』(アジア経済研究所統計資料シリーズ第 83 集) アジア経済研究所。

オムニ情報開発株式会社[2000]『標準国際貿易商品分類 (SITC)』改訂第 3 版、オムニ情報株式会社。

< 外国語文献 >

ITC/UNSD[1999] Trade Analysis System (PC/TAS)

——— [2000] Trade Analysis System (PC/TAS)